

広陵町自治基本条例推進会議  
令和8年度第7回計画推進部会  
議事録要旨

■ **開催日時** 令和8年6月17日(水) 10時00分から12時00分まで

■ **開催場所** 役場3階 第1委員会室

■ **出席者**

<計画推進部会委員> 7名(欠席1名)

<運営支援> 1名

特定非営利活動法人NPO政策研究所

<事務局> 2名

協働のまちづくり推進課

■ **議 事**

★計画推進部会と条例周知部会合同で推進計画事務局見直したたき台（第1～3章）について事務局から説明

（委員）

・第2章の「協働」の定義内の「町長等」の中に、町の職員は含まれるか。

（事務局）

・条例上の定義を掲載しているため、この表現となっている。

「町長等」は町長とその他執行機関としているため、その補助機関である町職員もその中に含まれているという認識である。

部会協議

★広陵町まちづくり推進計画の見直しについて（第1～3章）

（委員）

ページ数を減らすために詰めて書かれていたと思われるが、読みやすさとページ数のバランスに配慮した方が良いと考える。

書きたいことが多くあると推察するが、削れる部分は削るべきである。

(委員)

これを読む人はどのような層が対象であるのか。

(事務局)

計画としてはわかりやすさを重視しているが、小学生が読んで理解できる内容かと言えば難しいと思われる。

(運営支援)

小学校の出前授業に使用しているもので十分であるが、こども向けには別のものが必要である。

この計画としては、まちづくりを行っている人々に向けたもので問題ないと考ええる。

(委員)

まちづくりを行っていない人にも理解してもらえる内容とし、まちづくりがどういうものかを広く伝えるべきである。

(委員)

第一印象として、一文が長すぎて内容が伝わりづらい。住民向けの内容とするには、伝えたいことを文の最初に配置するなど、文章構成を工夫する必要がある。

(委員)

冒頭部分で興味を引き付けるような、「まちづくりの主役はあなたです」や「あなたが町を変えるのです」といったキャッチコピーを使用し、自分事として捉えてもらえる工夫が必要である。

(委員)

冒頭部分を読むだけで内容がおおよそ理解できるようにするべきである。記載されている内容そのものは良いと考える。

(委員)

まず面白さが欠けているため、読んでもらえないのではないかと。

(委員)

この計画をパンフレットの軽い内容にする必要はないと考える。  
パンフレットから入って、もっと知りたいから計画を読むという形で、それぞれの段階に応じた資料があれば良いと考える。  
導入部分で分かりやすさを求めるのであれば、パンフレットを作成することで対応可能である。

(事務局)

これまでの議論をまとめると以下の内容である。

- ・見やすさは重要であり、一文が長い場合は調整が必要である。
- ・活動を行っている者に理解してもらうことが重要であるが、同時に興味のない者にもわかりやすく伝えることを意識する必要がある。
- ・興味を持ってもらうための導入用のページを設けること、文書の順番を変更すること、キャッチコピーの挿入を検討することが必要である。

(委員)

見出しを追加することを検討すべきである。

(委員)

文書の構成として、順番は調整しつつ、タイトルは「協働のまちづくり みんなが主役」とし、見出しとしては(1)国の施策、(2)環境の変化、といった形でどうか。

(委員)

AIに依頼した結果、次のような4つの構成案を提示された。「町の主役が交代した(行政から住民へ)」、「広陵町における3つの大ピンチ(高齢化・少子化等)」、「だから協働が必要である」、「協働に必要な約束事としての自治基本条例」。構成については、AIに任せる方法も検討の価値があると考ええる。

(事務局)

記載されている内容自体に大きな変更は不要であるが、興味を持ってもらうための最初の導入ページが重要であるという認識で良いか。  
加えて、良いキャッチコピーがあれば提案いただきたい。

(委員)

主語が明確でない箇所が気になる。  
文書では住民を対象にすることが多いが、役場側の役割が明示されていないよ

うに思われる。

(事務局)

第4章「施策の展開」に具体的な内容が記載されているため、今回は第1章から第3章までの部分を中心に確認を行っていただきたい。

(委員)

第1章の中において、4 推進の体制と進行管理、ならびに5 参画と協働施策実施状況報告書の箇所では主語が欠如しているため、対象が誰であるのかを明示するべきであると考えます。

個別の内容については第4章以降に記載されているが、第2章の「なお、」以降の文章では内容が十分に伝わってこない。

イントロダクションとして具体的な取組、「公募委員を増やそうと検討している」などを記載することで、その後の第4章へとつながりやすくなるのではないかと考えます。

ページ3において、計画を策定してから4年が経過した背景を踏まえ、今後どのように進めていくかという視点を文章に盛り込む必要があると考えます。

(委員)

第一期計画の前後での評価を盛り込まなければ、この計画の継続性が欠如してしまう懸念がある。

資料3の施策実施状況報告書は量が多すぎるため、どのように読んでいけば良いか分かりづらい状態である。

(委員)

一つ一つ読めば理解は可能であるが、4年間でどのように変化してきたのかを評価する視点を設けるべきである。

(委員)

そのような意味では、単年度資料のみでは正確な評価が困難であると感じる。

(委員)

良好な事例を列記しておくことで、実際に活動していない人々にも「これなら自分にもできるかもしれない」という認識をもたせることが可能であると思う。PDCAサイクルの記載が既に取り込まれているため、過去4年間の実績を盛り込むことで、新しい委員にも理解しやすい内容になると考える。

(事務局)

施策実施状況報告書については、役場としてもその意識を高めるための手段としてこれまで実施してきたものである。

先進地の事例を参考にして始めた事業であり、改善の余地もあるが、まずは推進会議の委員各位に内容を知っていただきたいと考える。

(委員)

この4年間を振り返ると、パブコメ要綱の導入、ならびに公募委員制度の見直しが進展し、行政内部の取組は全体として比較的進んでいると評価できる。しかし次のステップとして住民の活動を支援する仕組みを今後検討していく必要があると考える。

(委員)

行政に長く携わってきたことから、計画はこういうものだという認識がある。しかしながら、住民目線で改めて考えた際に、具体的にどのようにすればわかりやすいかについて、なかなか思いつかないのが現状である。

(委員)

ユニバーサルデザインのフォントを用いたところ、見比べてみると非常に見やすい印象を受け、私たちが読み込めば十分理解できるものであると感じた。一方で、皆の意見を聞いてみたところ、見出しを付けることによってさらに見やすくなるとの意見もあり、共感する部分が多々あった。

また、テレビで能登地域の事例を見た際、行政がQRコードを町内にいろいろな場所で掲示し、読み込むことでポイントが貯まり、それを町で消費できる仕組みを設けた結果、住民が家から外に出る機会を増やし、交流も活発化するという事例を知った。

この仕組みを広陵町でも導入できたら良いと考える。

(事務局)

愛知県高浜市では、手作りの町長すごろくゲームを導入している事例があり、周知部会では楽しみながら取り組める方法を検討するのも良いのではないかと副会長とも話しているところである。

また、QRコードは有効であると考えており、自治基本条例の逐条解説書には、計画やハンドブックにアクセスできるQRコードを付けた。

さらに、ページを増やすという案に対し否定的な意見もあったことを踏まえ、今

回の計画の見直しでは、コラムなどの詳細情報をQRコードを通じてホームページから閲覧可能とする取り組みを考えている。

これに加え、ゲーム感覚で楽しめる手法については、周知部会にも伝える予定である。

(委員)

この部会のあり方として、3つ~4つ程度のグランドルールを設定し、全員が平等な立場でフラットに議論する形を提案したい。

(委員)

出てきた意見に対する事務局の説明が言い訳のように見えてしまい、こちらも心苦しく感じる。

できないことはできないという認識を持ち、意見を聞くだけ聞いてその後の判断や対応は行政側に任せる形で進めれば良いと思う。

そのため、事務局による都度の説明は不要である。

(事務局)

ありがとうございます。次回の検討材料としたい。

(委員)

章ごとのまとめを設けた方が良いと考える。

(委員)

よく読めばなんとなくつながっているが、1章および2章の記述において、4章を意識した表記があれば良いと考える。

(委員)

計画であるため、目標を設定し、何を実施するかという対応したロジックで記述することが望ましい。

(事務局)

それぞれ1章から3章において、目的やまとめを記載し、4章につながる論理的な記述を構成するべきであるという意見と認識した。

<まとめとして>

- ・見やすさが重要である。
- ・1文が長いため、もう少し分かりやすくする必要がある。

- ・キャッチコピーや伝えたい内容を前に配置することで、興味を持ってもらう導入ページを設けるべきである。
- ・見出しを設定することで、分かりやすさを向上させるべきである。
- ・行政の役割の記述が薄い。
- ・ページ6および7において主語を明確にする必要がある。
- ・施策実施状況報告書のみが突然具体的になっているため、パブリックコメントやその他の取組を追加する選択肢がある。
- ・第1期の評価として、何が達成され、何が達成されていないかを示す必要がある。
- ・1章から3章で目的やまとめを整理し、4章につながるように記述するべきである。

#### (委員)

現在出ている意見を基に、事務局サイドでたたき台を作成する場合、改めて集まる時間を設けることが困難である。

データを委員に送付してもらい、修正を加えたものを事務局に返却する方法を提案する。

#### (委員)

私は現状の出来栄を良好と評価しているため、内容面で大きく手を加える必要はないと考える。

参画および協働に前向きな人々が読み込むべき内容であると認識している。

委員が具体的な案を提示し、事務局が判断して進める形で十分であると考えている。

#### (事務局)

皆様にデータを送付するため、期限を設けることになると思われるが、その点について了承願いたい。

複数の意見が出てくることが予想されるため、事務局で一つにまとめた上で、皆様に返送する。

その後、意見がある場合は、以降の部会で述べていただきたい。

次回の全体会において、部会の報告を委員1名にお願いする。

最後に運営支援からコメントをいただきたい。

#### (運営支援)

非常に素晴らしい意見が多数出ている。

事務局は大変であろうと思う。

これは計画であるため、何をするか・誰がするか・いつするかという点が最も重要である。

第1章から第3章はそれに関する説明であり、第4章が計画の核心部分となる。次回の部会ではこの点をしっかり議論し、必要な部分を追加し、不要な部分を削除していただきたい。

この計画は、最初全く存在しないところから作られたものであり、ここまで形になったこと自体が大きな進歩である。

その上で、具体的にそれぞれがアクションを取っていくという進展が重要である。

進捗が不足しているからといって否定するのではなく、一緒に作り上げるという温かい姿勢で議論してほしい。

(委員)

データを送付する際、赤字にするべきか。

(事務局)

たたき台では赤字で修正箇所を示しているため、変更箇所が分かるようにするならば青字でも網掛けでも構わない。

## ■ 閉 会

